

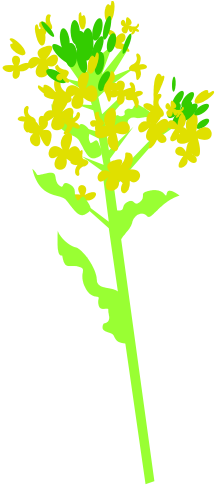
# 教頭の小部屋

2021.4.28 第2



## あれから16年

真っ青な空。強い日差し。4月25日（日）の朝は、夏を思わせる爽やかな朝でした。テレビや新聞では、緊急事態宣言発出のニュース一色でしたが、4月25日はJR福知山線脱線事故の16年目の日でもありました。



当時勤務していた学校の卒業生が、その事故に巻き込まれて短い生涯を閉じました。私が担任する学年の生徒でした。女子バスケットボール部に在籍し、活発で明るく、体育の授業もよく頑張る生徒だったのでよく覚えています。その年の春、高校を卒業し大学に進学したところでした。年齢は18か19歳になっていた頃です。大学生活で多くの仲間に出会い、いろいろなことを学び、社会に出て仕事をし…。きっと彼女には明るい将来が待っていたに違いありません。

今まで私は、いろいろな人の死に出会ってきました。身内や、友人、教え子…。周りにいる人の命がなくなったとき、『今、生かされている自分の命』を考えます。

私には3人の子どもがいます。子どもたち3人のことを思うと、愛情という簡単な言葉では表しきれない感情があります。私が自分の子どもに接するようになり、私の両親も、私に対してたくさんの愛情を注いでくれたのでしょうか。たくさんの愛の中で育てられ、生かされてきた自分。

あなたもきっとそうです。多感な年頃で素直になれなかったり、わすれてしまいがちなことですが、あなたは、親、祖父母、兄弟、親戚など、たくさんの愛情の中で生かされてきたのだと思います。また自分の隣に座っているクラスメイトも、きっと大切にされ、生かされてきた命なのです。人を大切に、そして自分を大切に…。人の気持ちを考えたり思いやったり行動したり、そんな何気ないことから、人を大切にするのが始まるのだと思います。『情けは人のためならず』って知っていますか？『情けをかけるとその人のためにならない』という意味ではありません。『人に情けをかけると、その情けは回りまわって自分に返ってくる』。すなわち、周りの人に対する優しさや思いやりは、回りまわって自分に返ってくるということです。人を大切にする自分は、周りの人に大切にされる自分であるわけです。

毎日の生活の中で「亡くなった生徒の分まで、精一杯生きてやろう！」と、厚かましく思うことはありませんが、毎年この季節に、命の大切さを振り返ります。

## 1年生が入学して

1年生の中学校生活が、1か月過ぎました。緊張感溢れるスタートでしたが、部活動の仮入部も終わり、少しずつ中学校に慣れ始めたのか、笑顔を浮かべるような場面が増えてきたように思います。先日、私の掃除場所に来ている1年生の男の子に「先生～。あんな～。僕なあ～。」と話しかけられました。「君は、友達のお父さんに話しかけてるのかね」と思いましたが、そんな子も、3年生になったとき、立派な青年に成長しているんでしょうね。微笑ましく、また、楽しみになりました。

